

ワンウェルフェア

One Welfare 国際研究センター

人と動物の健康と福祉は一つであるという考えのもと、地域社会・国際社会と連携したワンウェルフェア研究を全国に先駆けて推進します。

ワンヘルスからワンウェルフェアへ

新型コロナウイルス感染症に代表される新興感染症の多くが、動物から人へ、人から動物へと伝播可能な人獣共通感染症であり、その対策は世界中で大きな課題となっています。

また、気候変動や環境汚染などによって生活環境が悪化すれば、健康被害を受けるのは人も動物も同じであり、環境の健全性は守るべきものです。

このように人の健康、動物の健康、環境の健全性は、生態系のなかで相互に密接につながり、強く影響し合っています。この考え方を One Health (以下、ワンヘルス) といいます。ワンヘルスという概念は国際的に既に定着し、医学・獣医学など多分野の横断的な連携による研究が推進されています。

このワンヘルスの考え方をさらに進化させたものが One Welfare (以下、ワンウェルフェア) です。ウェルフェアとは福祉の意味。健康だけでなく、生活の質や心身のウェルビーイング (幸福感) は、人と動物双方にとって大切なことであり、それ自体も連動しているという概念です。

新たな手法・視点による異分野融合研究

健康については科学的・統計学的な研究が盛んに行われています。一方で、幸福感は主観的であるがゆえに数値化するのが困難であり、科学的アプローチは難しいとされてきました。

これまで山口大学共同獣医学部では、医学部と連携し、人獣共通感染症や食品・環境由来感染症の研究など、ワンヘルス・アプローチによる研究を進めてきました。そこから発展させてワンウェルフェア・アプローチによる教育研究を推進するためには、文理融合の分野横断的な連携、さらには自治体や企業など、地域との連携が必要不可欠です。また、我が国のみならず、アジア・アフリカ

の獣医学の発展にも寄与するグローバル人材の育成も必要になってきます。こうした背景から、本学では「One Welfare 国際研究センター」を設置し、我が国のワンウェルフェア研究の推進を加速化させる大きな一歩を踏み出しました。

ワンウェルフェア研究を推進する4つの部門

同センターでは4つの研究部門を立ち上げ、データサイエンスや AI を駆使しながら、他学部・他大学・自治体・企業と連携した先進的な教育研究活動を行います。

1) 人獣共通感染症部門

医学・獣医学連携を土台にした分野横断的な感染症研究を行っています。具体的には、人獣共通感染症の世界的な分布を調査する疫学的研究、独自に開発した実験材料を用いた病原体と宿主の感染・共生モデルの開発、感染制御法の構築などが挙げられます。

同部門の強みは、ゾウリムシやカイコなど独自に開発した自然宿主モデル材料を用いた解析です。これらは文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) ※の中核的拠点整備プログラムに採択されています。

※文部科学省主導の国家プロジェクト。ライフサイエンスの研究に用いられるバイオリソース (実験動物や植物、細胞や遺伝子、微生物等) の収集・保存・提供体制の整備を目的とする。

2) 法獣医学部門

凶悪犯罪や虐待、家庭内暴力など、人間に対する異常な暴力的犯罪の裏には、しばしば動物虐待の痕跡が指摘されていますが、そのメカニズムは未だ明らかにされていません。そこで「法獣医学部門」では、不審死の動物を対象とした死因調査、ケガを負った野生動物の救護におけるウェルフェアの評価、県内の野犬対策などを通じて、科学的知見を収集し、実践に役立つ予防的な研究につなげることを目指しています。法獣医学は日本ではまだ確立さ

人と動物が健康で幸せに生きるために

山口大学共同獣医学部では、人と動物のウェルビーイング (幸福感) と環境を一体的に捉え、新たな手法・視点による異分野融合研究を推進する産学公連携研究拠点として、2024年11月、「One Welfare 国際研究センター」を設立しました。人・動物・環境に関わる様々な問題解決に向けて、地方自治体や企業、市民等の多様なステークホルダーを巻きこんだ先進的な取り組みを目指します。

れていない新しい学問として注目されています。

3) 動物介在活動部門

人に寄与する動物のウェルビーイングを検討する部門です。山口大学では「おもしろプロジェクト」の一環として、感受性や共感性が高いとされる馬を使ったアニマルセラピーを実施してきました。今後は、このホース・アシステッドセラピーが馬に与える効果を科学的に解明し、地域社会と連携した取り組みやワンウェルフェアの普及啓発活動を展開します。

4) 国際協力部門

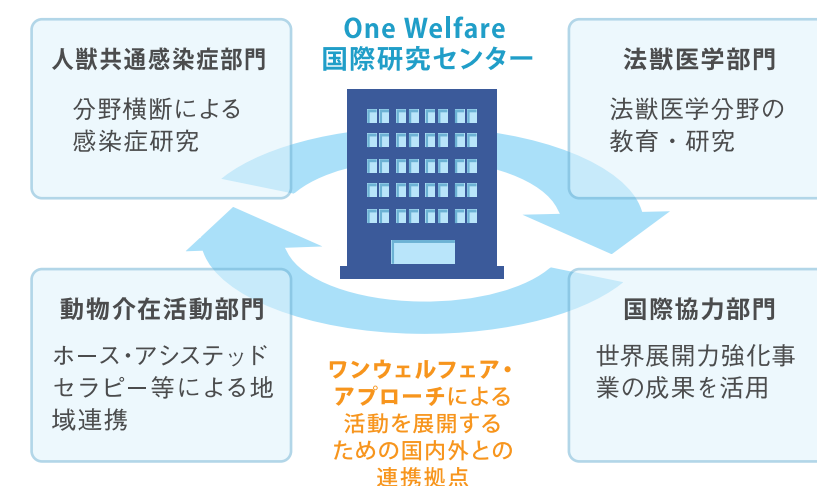
世界展開力強化事業によって築かれた、ケニアを中心としたアフリカ諸国、インドネシアを中心とした ASEAN 諸国との連携を活用した、国際的なワンウェルフェア教育研究プログラムを実施します。具体的には、本学の共同獣医学部生とナイロビ大学の獣医学部生との共同作業による実習、交換留学生制度など。世界各国から研修生を受け入れ、各種研究プログラムを提供します。

総合大学としての強みを生かして

これからの展望について、度会雅久センター長は次のように話します。

「新たな概念からのアプローチによりワンウェルフェアを総合的に推進する組織は他に例がありません。それゆえに私自身も大きな期待を寄せています。ワンウェルフェアの根底にあるのは“違いを知ること”。例えば、日本人が考える幸福とケニア人が考える幸福は違いますし、個々によっても異なります。動物にも同じことがいえると思います。自己と他者の違いを理解して、相手の立場になって考えること。様々な場面において“共感性”が求められてくると思います。そうした意味においても、文理融合の分野横断的な連携による研究は必要不可欠です。今後は、総合大学としての強みを生かしながら、他大学や自治体、企業、関係者との連携を強化し、ローカルとグローバルの2軸で課題解決に取り組んでいきたいと思っています」

ワンウェルフェア (One Welfare) 研究拠点



One Welfare 国際研究センター長 / 共同獣医学部長
わたらい まさひさ
度会 雅久